



小學教科
秋田縣地理歴史
全

ル 4
1734



門ル呂4
1734
卷

日三月八年一卅治明
濟定檢省部文

淺沼正毅編纂

小學教科 秋田縣地理歴史

鮮進堂藏版

山藏

書

教科書

秋田縣地理歴史

緒言

一此の書は、高等科第一年生、若くは、尋常補習科生徒をして、本縣に關する地理歴史の大体を知らしめんが爲に、著はしたるなり。

一此の書は、轉合的教授の便を計り、又は兒童の興味を惹かんが爲、地理と歴史とを、遽に併録して、其の關係を密ならしむ。

一地理の教授は、小學兒童に對しては、保合的

小學教科書地理歴史

方法を先にして、分類的方法を後にすべきものなれば、此の書の第一篇には、保合的に、各郡市の記事をのせ、第二篇には、分類的に、一般の事實を述べたり。

一此の書は、各學校所在地の地理歴史につき、教授すべきものなれば、各、其の學校所在地の郡市より、他の郡市に移り得る便を與へたり、即、第一篇には、各郡市に分ちて、其の記事をのせられたれば、適宜に、其の順序を變更するを得べし。

一此の書の第一篇各郡誌中に、細字を以て、記載したる部分は、各、其の學校所在地の郡に限り、之れを授け、其の他の郡には、省略せんことを要す。

一一般史に詳かなる事實は、郷土史に之を畧けり。

一歴史の事實を詳記することは、此の書の許す所にあらねば、他日参考書を編纂して、其

の欠を補ふべし。

明治三十年七月

著者識

一 一 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 二 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 三 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 四 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 五 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 六 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 七 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 八 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
一 九 秋田史の編纂に必要なる資料の調査
二〇 秋田史の編纂に必要なる資料の調査

小學校 秋田縣地理歴史

一 目 次

第一編 秋田縣の歴史 一六六

第二編 地理歴史 一

秋田市 二

南秋田郡 八

河邊郡 十二

仙北郡 十三

平鹿郡 十六

雄勝郡……………十九丁

由利郡……………廿二丁

山本郡……………廿五丁

北秋田郡……………廿七丁

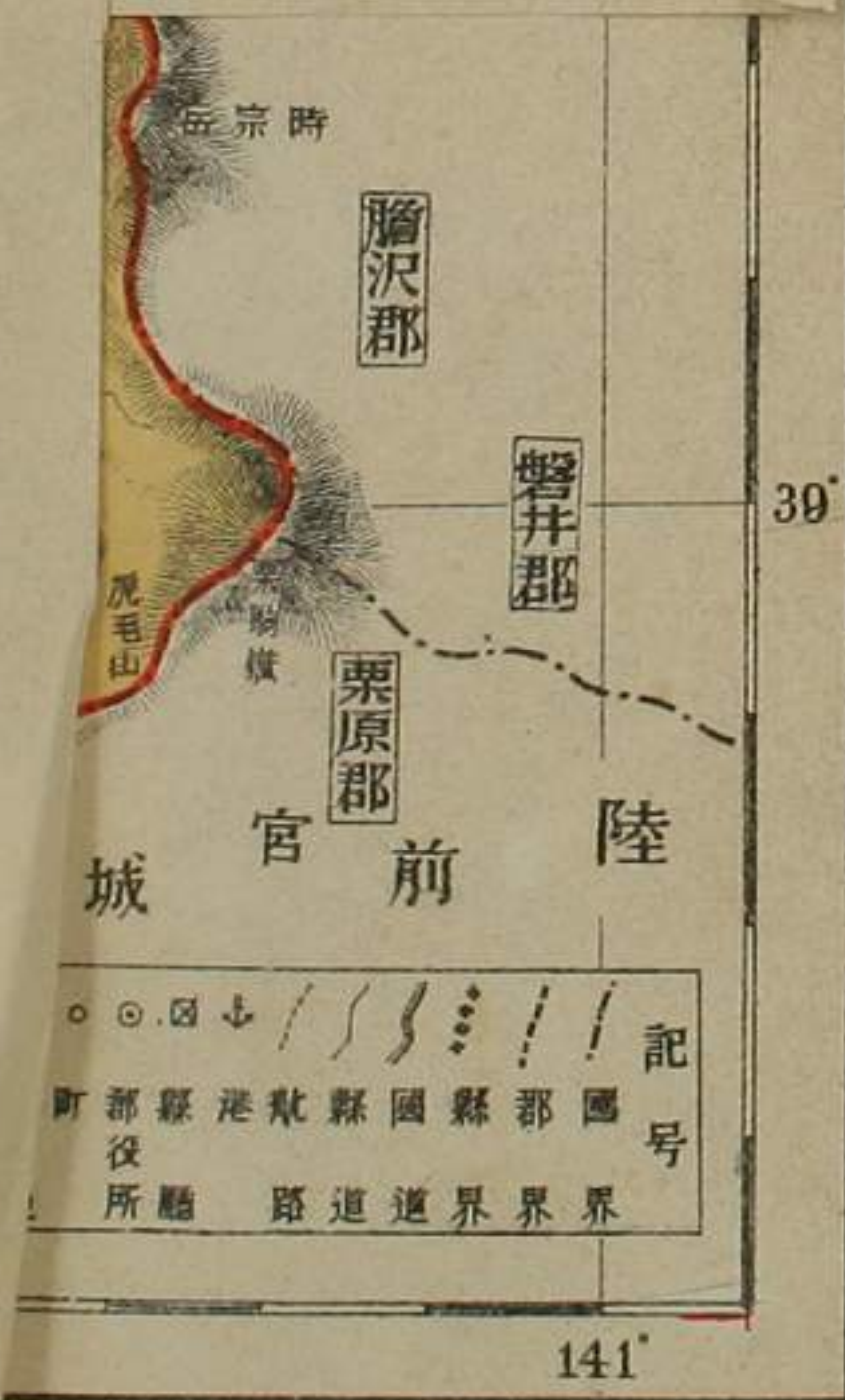
鹿角郡……………廿九丁

第二編

一般ニ關スル地理……………三十丁

一般ニ關スル歴史……………卅六丁

秋田縣以上地理歴史



秋田縣地圖



記号
道路境界
縣界
國界
市界
町界
村界
山頂
温泉
名所
地名
標高
地形



地理
ノ
歴史

小科 秋田縣地理歴史

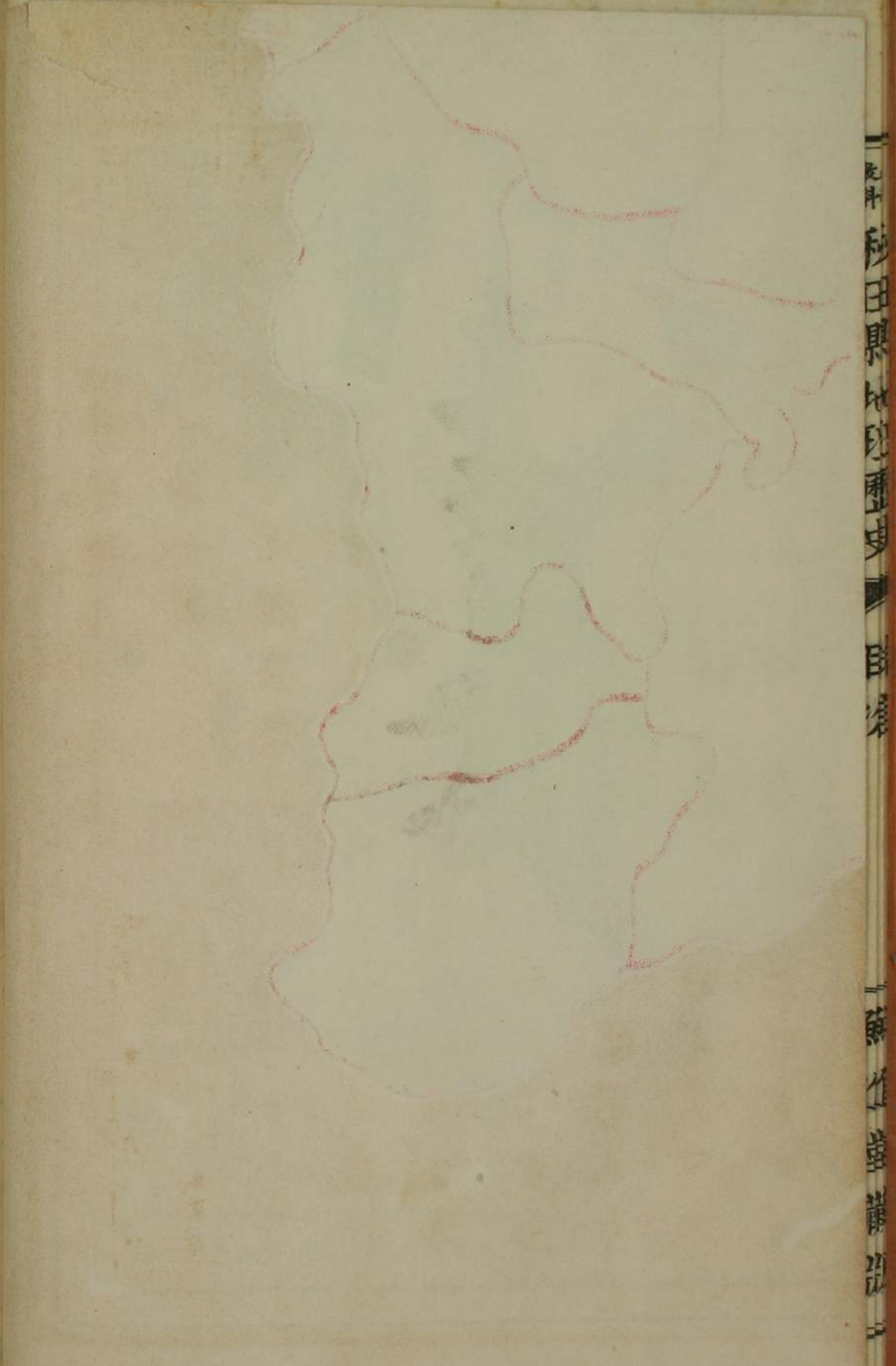
第一篇

明治四十二年四月二十日
山上萬次郎氏寄贈

諸子よ、晴れたる日、野に出でて、遊び
ことあるべし。其の時、近きに川は流れ
しならん。遠きに山はろびえしならん。
其の間には、田畑もあり、人家もありて、
景色いと面白かりしならん。又、其のほ
とりなる神社を、拜せしこともあるべ

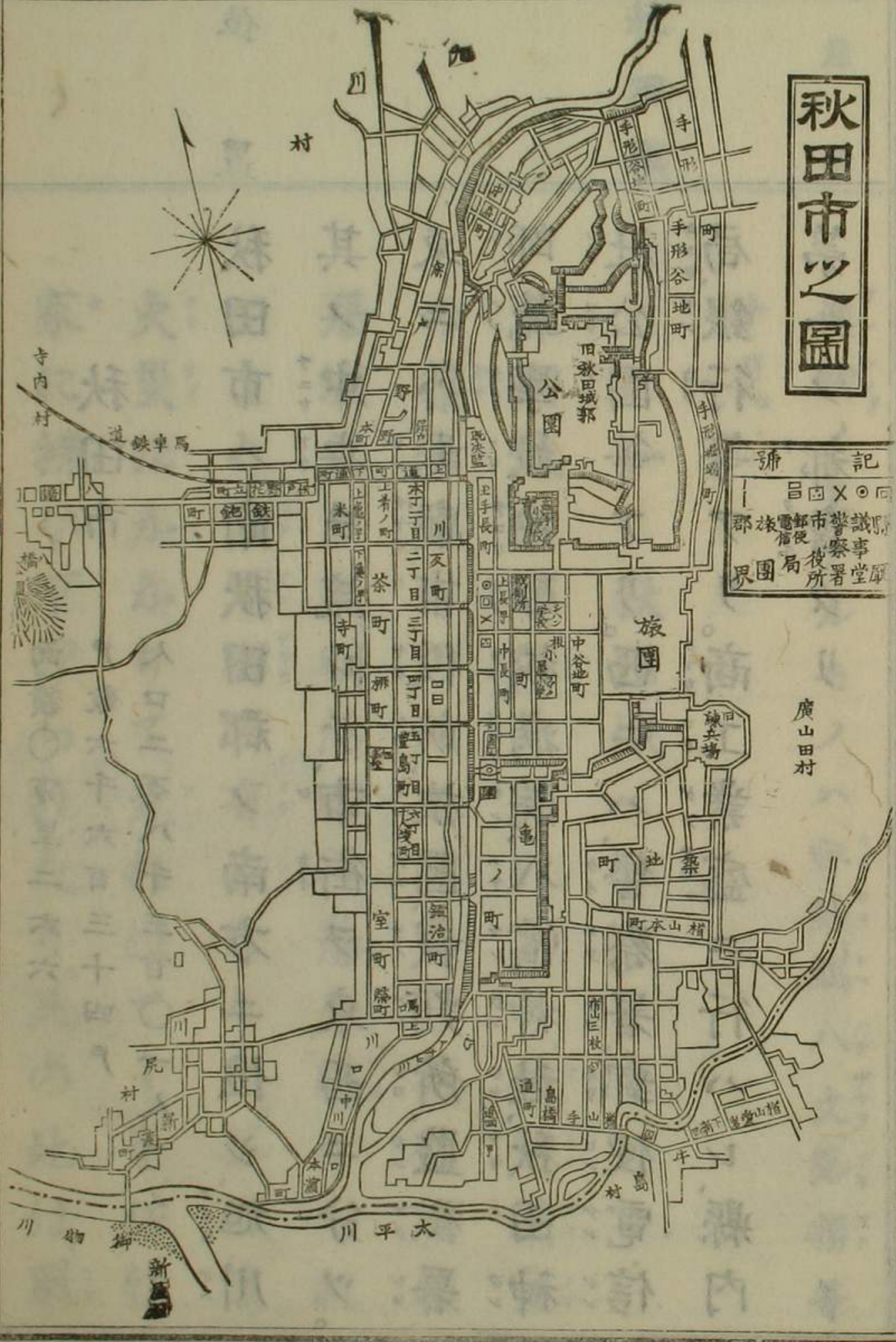
小學
大日系地理歴史

洋
進
堂
蔵
反



一。其の神社に祭れるは、遠き昔、國の爲、
 吾等の爲、大に難儀^{ナニギ}一給ひ一神々に一
 て、今日吾等のかく、安樂^{アンラク}に世をわたる
 を得るも、皆、此の神たちの賜^{タマ}ものなり。
 さて、斯^{カカ}る土地の有様^{アリサマ}と、昔の事柄^{コトガラ}とを
 かけるを、地理歴史とはいふなり。
 我が秋田縣には、是等の面白きこと、數
 多あれば、諸子は、よく、其の事どもを學
 びて、公益を起すべし。

秋田市之圖



小學

秋田縣地理歴史

二

新進堂藏版

位置

秋田市

面積〇方里二六六
戸數六千六百三十四戸
人口二万八千三百〇一人

秋田市ハ南秋田郡ノ南方ニ位シ旭川
其ノ中央ヲ流レテ市街ヲ東西ニ分ツ。
東ニハ縣廳市役所旅團裁判所監獄署
師範學校中學校病院八幡神社秋田神
社公園等アリ。西ニハ警察署郵便電信
局銀行等アリ。商工業盛ニ行ハレ縣内
第一ノ都會タリ。

産物

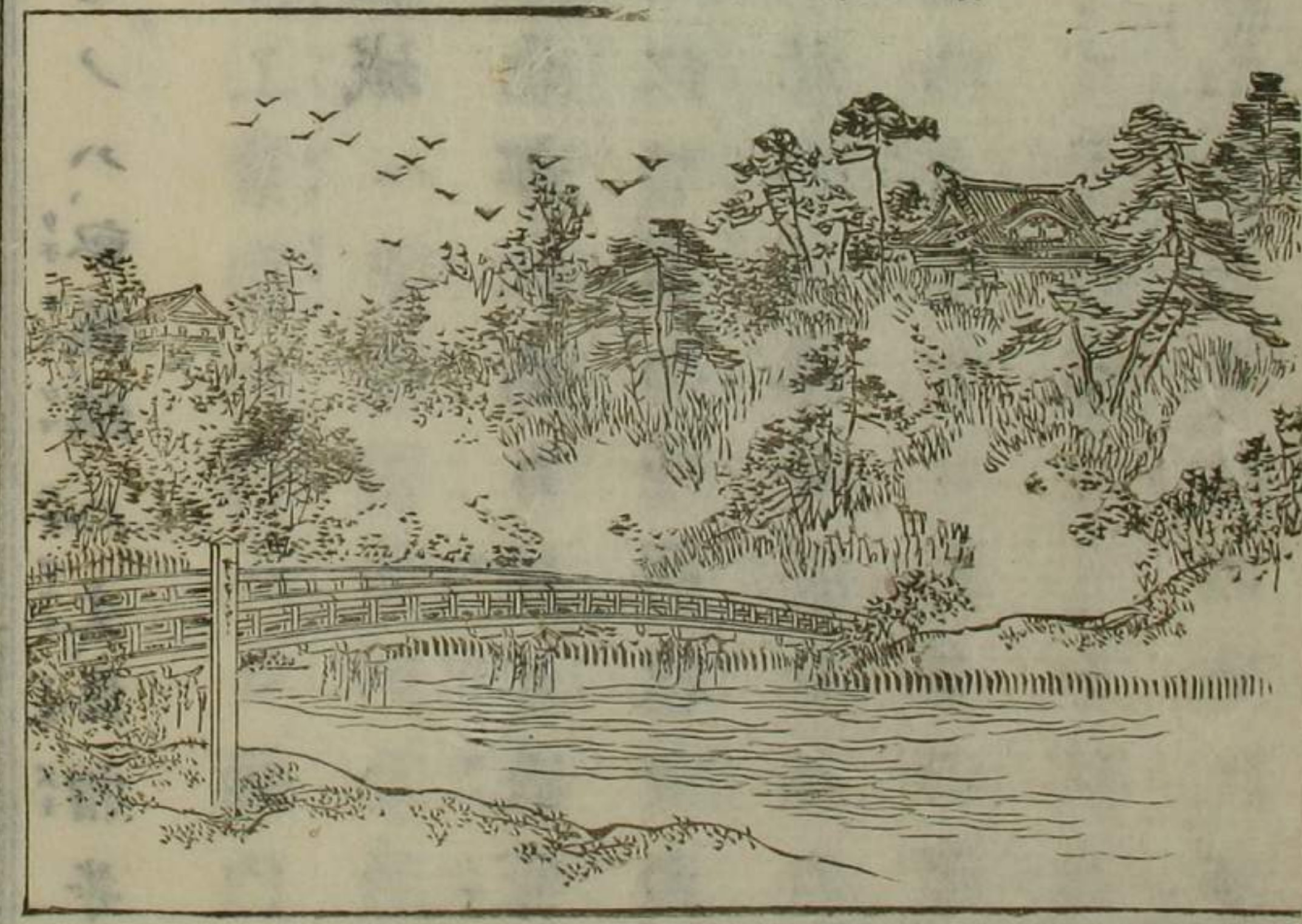
秋田城

産物ノ主ナルモノハ、
一 秋田城
ナリ。

秋田城は市の北部にあり、佐竹義宣
の築きしものにて、其の子孫代々の
居城なりき。明治四年、藩を廢せられ
てより、陸軍省の有となりぬ。其の後
火災にかかりて、荒れはてしを、佐竹
家に拂ひ下げられたり。此の地は、風

景甚宜了け
れば、縣民請
ひて、公園を
開き、秋田神
社、招魂社を
も、此の境内
に移せり。秋
田神社は、佐
竹義宣を祭

舊秋田城之圖



佐竹義宣

り、招魂社は、戊辰ボシン 明治元年の役と、明治廿七八
年の役清征との忠死者を、祭れるものなり。
二 佐竹家の明君の
義宣は、もと常陸ヒタチの國水戸ミヅウの城主な
りき。關セキが原ハラの役エキ、病ヤマヒと稱して、出で
ざりければ、石田三成イシダ シンゲにくみせいと
て、徳川家康トクガハ イヘヤスのために、其の封を移さ
れ、秋田、山本、河邊、仙北、平鹿、雄勝の六
郡を領しぬ。是れ慶長七年ケイチャウ 二百年前の事コト

義宣之肖像



なく、久保田今秋田市に移りぬ。其の頃には、物を盗み、財を掠むるもの多く、人心尚安からざり。かば、義宣大に、之れを

なりき。初は、土崎港南秋田に居り。一も、其の地、甚狭ければ、間も

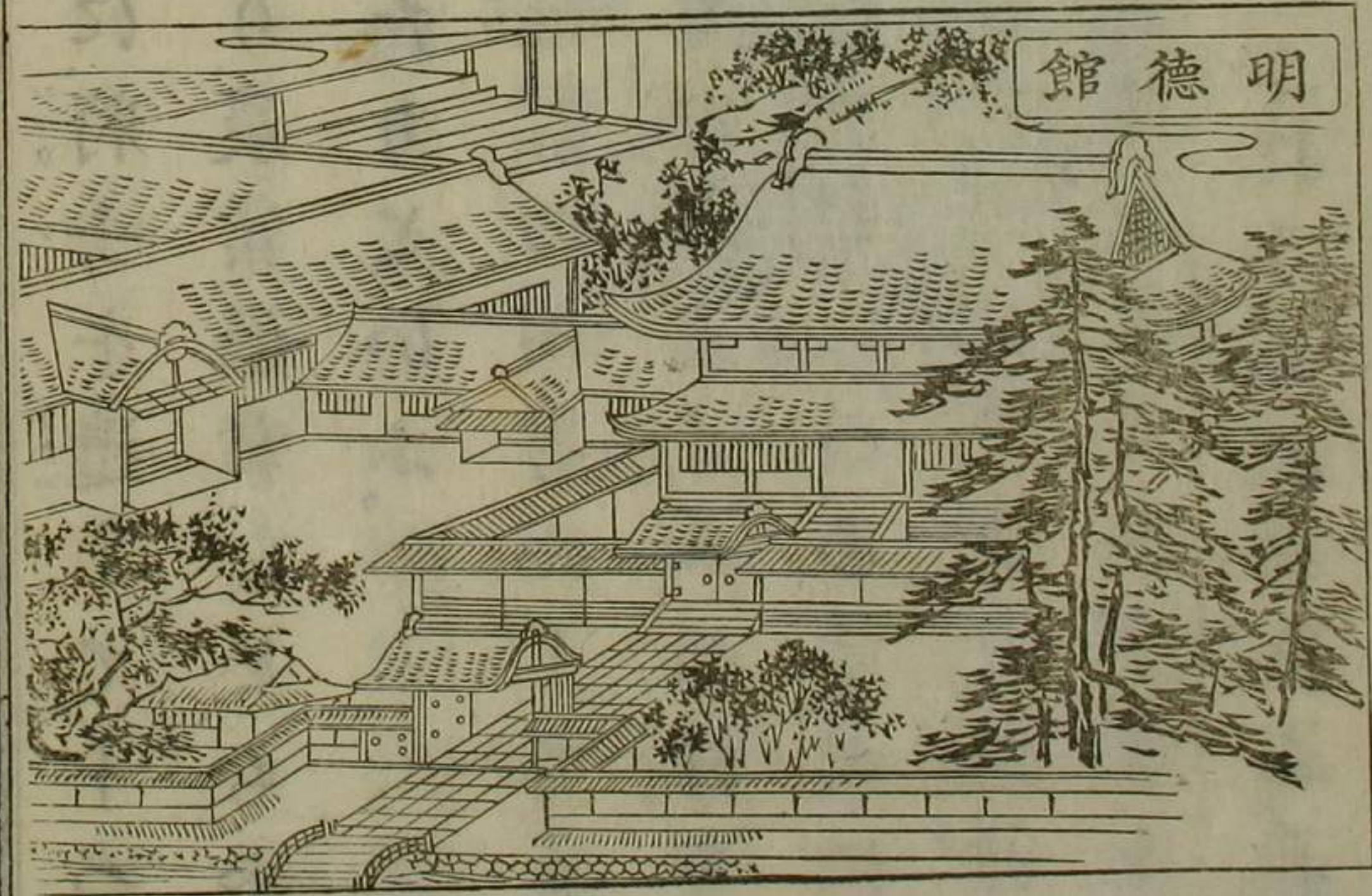
佐竹義隆

嘆き、あちこちに、將士を遣して、一づめけり。是れより、農業、漁業なども、やうやく、行はれたりといふ。
義隆は、岩城貞隆龜田城主の四男にして、義宣の養嗣子となれり。よく、人の諫をいれ、良からぬ政は、速に、改めて、大に治をはかれり。或時、幕府川徳より、巡檢使來りけるに、何事も、かくさず、申し出でよと、下民にふれ、一めぬといふ。其

義隆夫人

の夫人も、賢明ケンメイの
名高き人なりき。其の子の
病身ビヤクシンなるに、常
に馬に乗らぬ。又風雨寒暑
にもなれぬ。義和は幼より

佐竹義和



學を好み、村瀬ムラセ栲亭カウテイ、中山ナカヤマ盛履モリアミ等を師
として、學びぬ。寛政クワンセイの始ハジメ、財政サイザイ頗難ヘイノアルカタ
かりければ、匹田ヒキダ定常サダツネを採用サイヨウして、之
れををさめぬ。且、學校ガクをも創立サツリフせ
り、明德館メイタククワン、即、是れなり。今日、我が地方
の文學、盛に行はるるも、皆義和の賜
ものなりといふべし。

三 中山盛履 平田篤胤

中山盛履

中山盛履モリアミは、初、醫家イノカに生れしも、
著ハ仙北 繪木内人

小學

大田系七理

六

洋進堂藏版

平田篤胤

常に心を儒學ジュガクに傾カクムけたり。遊學ユガクして、江戸京今東より歸り、後は佐竹義敦ヨシアツの侍讀シヨクとなり、且、國の大事は、あづかり聞かざることなかりき。明德館の成るや、祭酒サイシユに進められ、養老イヤウラウのさかもりには、必、國老コクラウ席セキにつけられたりとる。

平田ヒラタ篤胤アツタカは、大和田某オホワタノミヤの子なり。少年の頃、中山盛履シヨウリョウに従ひて、學び、後

平田篤胤之肖像



平田某ヒラタノミヤの養子となれり。其の後、本居宣長ノリナガの書に感下、始めて、神道を修め

思ふところありて、ひろかに江戸エドに行き、賤シヤンしき業を執りて、僅に、飢をしのぎ、苦學數年の後、松山藩マツヤマハン中備ナカノボ

ぬ。學成りて後、諸方より、招がれしも、皆辭し、佐竹家の内命により、國に歸りて、また、秋田藩士となり、旗本近進に進められき。其の著書甚多く、何れも、尊王の志をはげましもものなり。天保十四年、五十餘年前六十八歳にて、身まかりぬ。明治十四年、朝廷より、正四位を贈られたり。

四 金秀興

金秀興

金秀興は、養蠶の業をすゝめける人なり。初、養蠶場を、川尻村南秋田にまうけ、數年間ためたる後、藩廳にこひ、富商にとき、多くの仕入を得て、あちこちに、養蠶場、及び、織座などを立て、伊達、福島代岩等より、教師を招きて、關喜内勝雄那波三郎右衛門などと、大に此の道をひろめんとしたれども、天保四年六十餘年前の凶作にあひ、殆、ホトンド其の業を

やむるに至りぬ。されど、今日の畝織
縞八丈は、此の時の發明なりとぞ。

南秋田郡

面積七十五方里。町村數三十五
戸數一万六千四百二十一戸
人口十一万千八百三十三人

境

南秋田郡、東南ハ、河邊、北秋田ノ二郡ニ
界シ、北ハ山本郡ニシテ、西ハ日本海ニ
向ヘリ。

地勢

東北ノ境ト、男鹿半島トニハ、山多ク、西
部ニハ、平野遠ク連レリ。

山岳

温泉

港

湖

産物

土崎港町

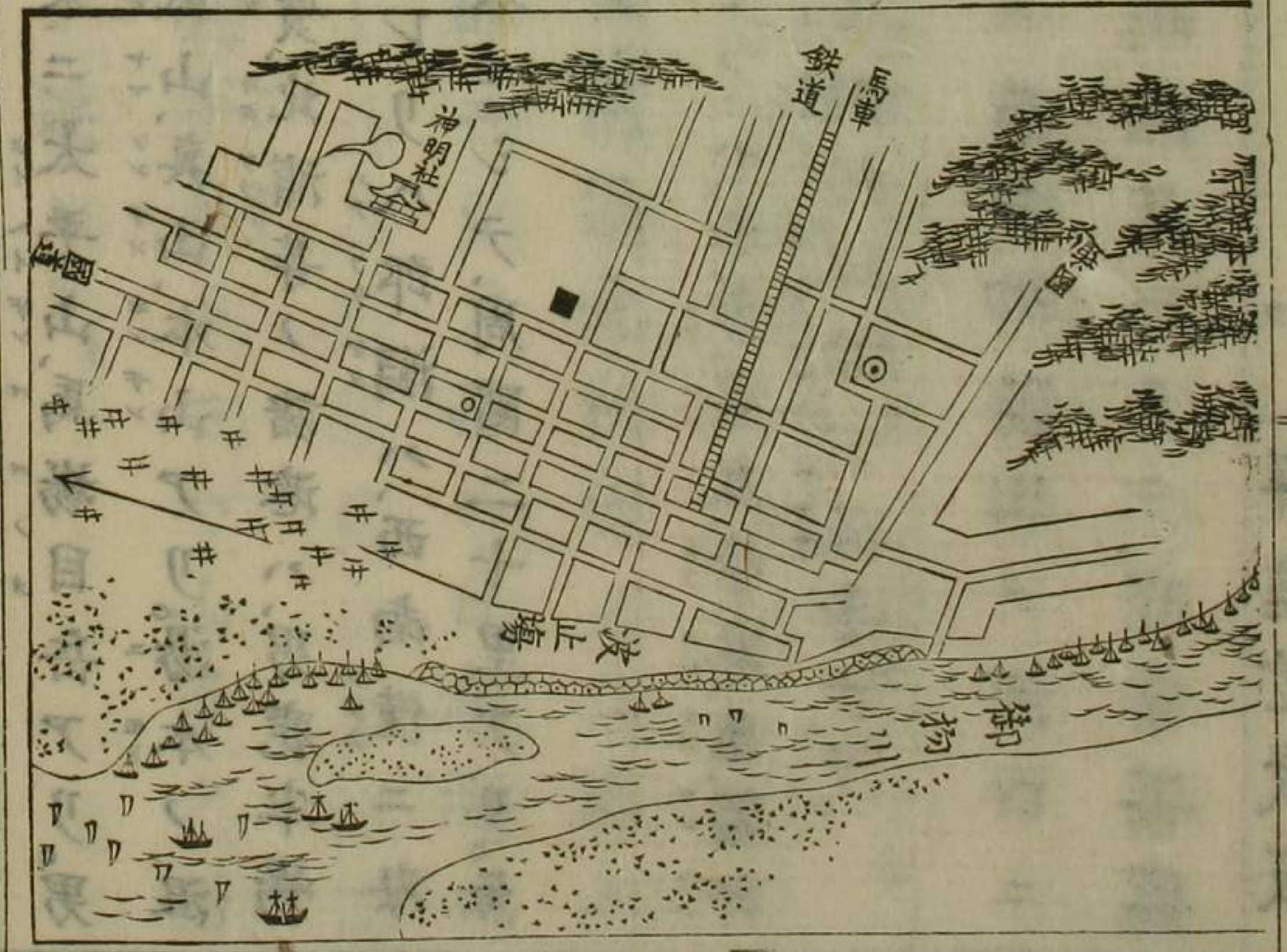
山ノ名アルハ、東ニ太平山、馬場目岳アリ。男
鹿半島ニハ、寒風山、真山、本山アリ。湯本ノ温
泉及ビ船川、戸賀、北浦等ノ諸港ハ、男鹿半島
ノ周邊ニアタレリ。八郎潟ハ、西南僅ニ海
ニ通ゼル大湖水ニシテ、周圍二十里アリ。魚
ヲ産スルコト多シ。

産物ノ主ナルモノハ、米、麥、粟、瓜、芋、麻、葱、蠶卵
紙、鯿、鮭、鱒、鱒、白魚、鰯、鮒、鱈、蛤、公魚等ナリ。

土崎港町ハ、郡ノ西方、御物川ノ河口ニ
アリ。四方ヨリ商品集マリテ、商業甚盛

ナリ。秋田市
ト、鐵道馬車
ノ交通アリ。
此ノ地ニ郡
役所、警察署、
郵便電信局
等アリ。

土崎港町ノ圖



土崎古城

土崎古城
は、安倍
鹿
鹿

季スエの築きて居りし所なり。鹿季ミナト、港九郎と稱し、秋田郡を領せしが、友季トモスエの時代に至り、檜山ヒノヤマの城主安倍實季サチスエ、之れを滅し、自、本城に移りて、秋田城アキタと稱せり。關が原の役に、出陣せずとて、家康の爲に、常陸の宍戸シノトに移されき。後、佐竹氏來るに及び、久保田に移り本城を廢しぬ。

寺テラ内ウチ村ニ、秋田古城址ト、古四王社トアリ。

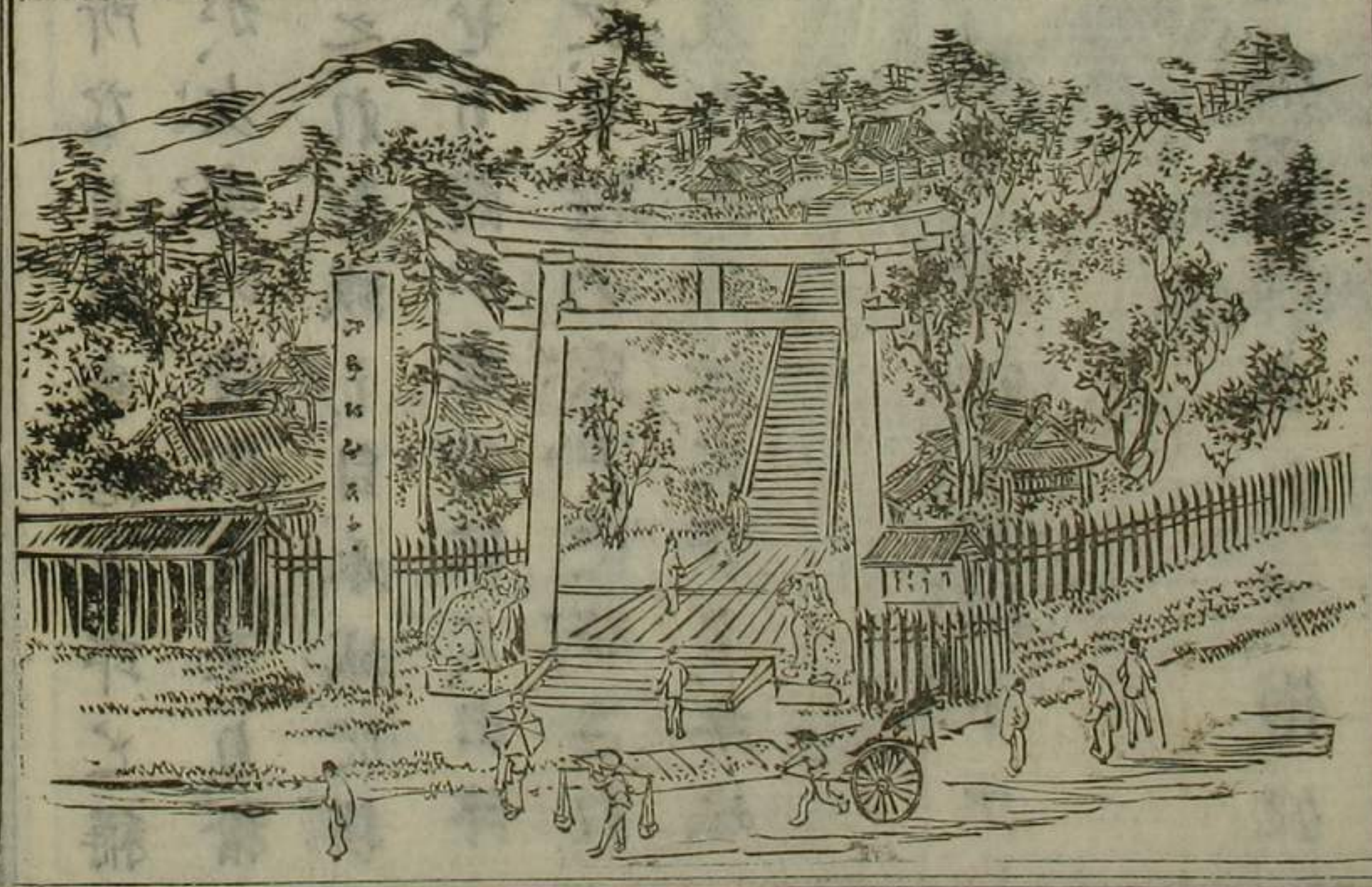
秋田古城は、高清水岡タカシヅノノカにありて、俗に、

秋田古城

古四王社

勅使館と稱す。
 征夷將軍、按察使、出羽守等の
 居りし所に、
 て、今より、一千
 年前の古城なり。
 古四王社は坂
 上田村磨の我
 が地方に來り

古四王社之圖



田村將軍之肖像



中の一に、其の名、世に高し。此
 の社は、明治十五年、國幣小社に列せ
 らる。

て、蝦夷を平げ
 るとき、大彦命
 を祭りし所な
 り。大彦命は、其
 の昔四道將軍

補陀寺

旭川村ニ、補陀寺アリ。

小學

秋田縣七里歴史

十一

洋進堂藏版

藤房卿之肖像



藤房卿のことなりといふ。

男鹿半島ハ、郡ノ西、日本海ニ突キ出デタル地ナリ。其ノ西北ノ沿岸ニハ、島々

補陀寺は、今より、五百餘年前、名高き忠臣、藤原藤房フナハラノフナサ卿の、世をのがれ、キヤウ一所にいて、無等ムトウ良雄和尚リヤウニョウとは、即

男鹿半島

半島

相峙ソバタチテ、青松其ノ上ニ生ヒ茂リ、

風景甚佳ナリ。春シユン夏ノ候、遊客頗多シ、

シ、

五城目町

五城目町ハ、郡ノ

東方ニアル一都

邑ナリ。山林ノ産

物多シ。

男鹿高雀窟之圖



小學

和州縣地理

十二

洋進堂藏版

河邊郡

面積四十二方里。町村數十五
 戸數五千二百七十九戸
 人口三万五千三百四十三人

境界

河邊郡北ハ、秋田市、及ビ、南秋田、北秋田
 ノ二郡ニ界シ、東南ハ、仙北郡、及ビ、由利
 郡ニ隣リテ、西ハ、日本海ニ面セリ。

地勢

東部ハ、山地ニシテ、西部ハ、平野ナリ。

川、原野

岩見川ハ、東ヨリ來リテ、御物川ニ入ル。其
 ノ南ニ、大張野アリ。

産物

産物ノ主ナルモノハ、鱈、松露、素麵等ナリ。

牛島町

牛島町ハ、郡ノ北部ニアリ、秋田市ト、人

山岳

家相連ル。郡役所アリ。

新屋町

新屋町ハ、郡ノ西方、海濱ニアリテ、御物

川其ノ東ヲ流レ、漁業頗、盛ナリ。此ノ地

ニ、栗田神社アリ。

栗田神社

栗田神社ハ、栗田如茂を祭れる所なり。如
 茂ハ、曩ニ、新屋村の風砂にあらさるるを
 嘆き、藩廳に上言して、先茱萸をうる、次ぎ
 に松苗を植ゑ付けしに、其の後ハ、風砂も
 止み、田畑も所々に開け、且、松露、初茸など
 も生ずるに、いたりしかば、村民深く其の

徳をこしたひて、此の神社を建てたりとろ。

仙北郡

面積百七十四方里。町村數三十九
戸數一万九千〇七十九戸
人口十一万四千〇十一人

境界

仙北郡、西北ハ、河邊、由利、北秋田、鹿角ノ

地勢

四郡ニ界シ、東ハ、岩手縣、南ハ平鹿郡ニ
接ス。東北、西ノ三方ニハ、山アリテ、其ノ

中間ト、南部トニハ、平野アリ。明治廿九年地大

百八十八戸、
家四千餘戸

山岳

山ノ名アルハ、東ニ、駒方岳、大深岳、藥師岳、

鑛山、川

真晝岳、西南隅ニハ、神宮寺嶽、北ニハ、大佛

岳アリテ、其ノ脈ノ西端ニハ、荒川、畑等ノ
鑛山アリ。玉川ハ、東北ヨリ来リ、鰍瀬川ヲ

温泉、湖

合セ、西ニ流レテ、御物川ニ注グ。其ノ上流
ノ東ニハ、鶴湯、黒湯アリテ、西ニハ、田澤湖

原野

アリ。周回三里、原野ニハ北ニ、小野臺野、小
和瀬野、南ニ、若林野アリ。

産物

産物ノ主ナルモノハ、米、大豆、馬、鱈、背黒、銅
管笠、樺器等ナリ。

大曲町

大曲町ハ、郡ノ西南ニ位シ、西ニ、御物川

小學

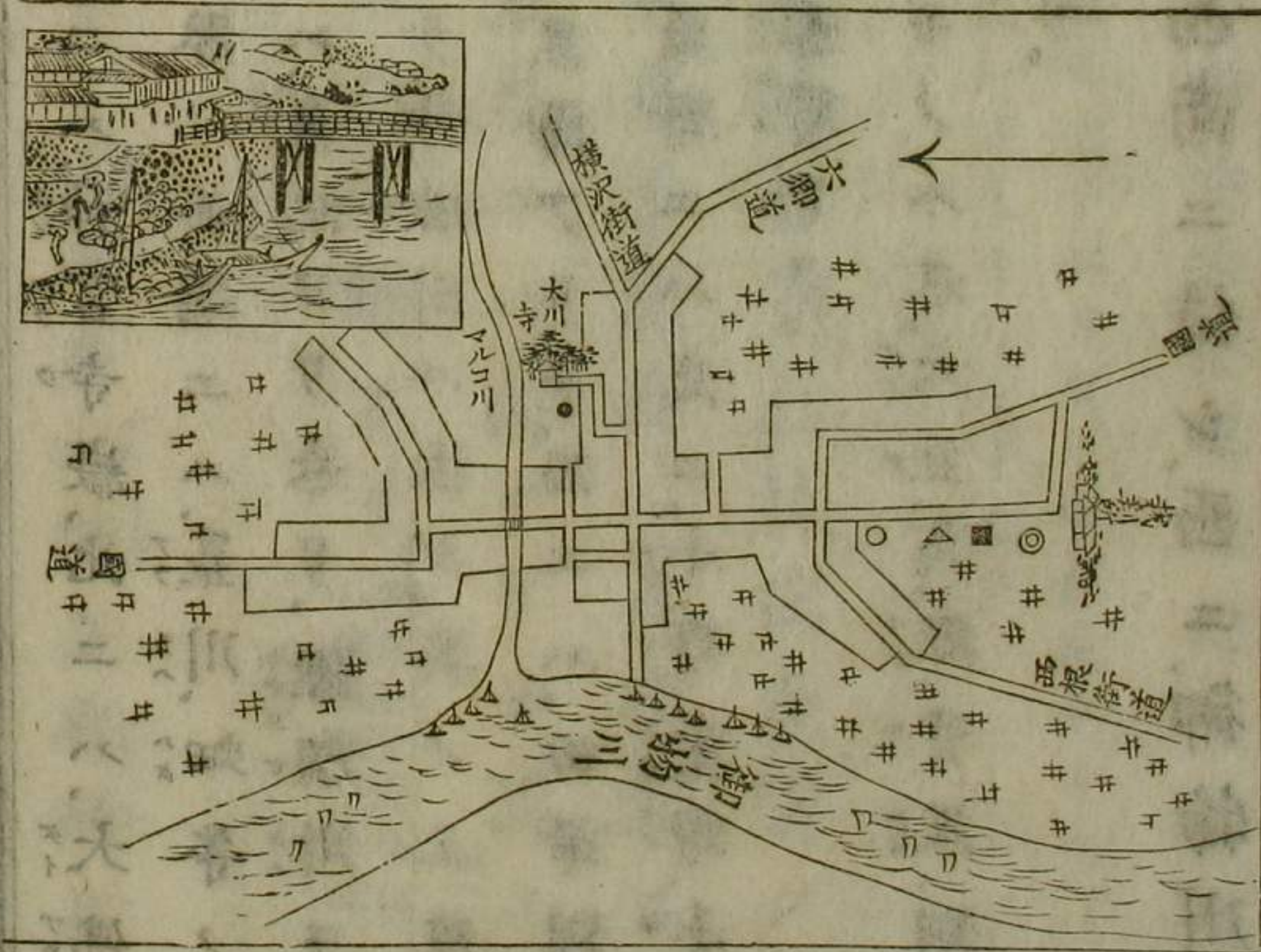
大曲系地理歴史

十四

一洋 建築版

アリ、中央ニ
 鞠子川アリ
 テ、舟運頗、便
 ニ、米穀ノ取
 引、甚、盛ナリ。
 郡役所、裁判
 所、監獄署、郵
 便電信局等
 アリ。

大曲町之圖



角館町ハ、郡ノ北方ニ位シ、東南、西ハ、玉
 川ト、鰍瀬川トニ限ラル。工業頗、盛ニ、商
 業之レニ次グ。

角館城

角館城は、戸澤盛安の居城なりき。家康の
 時代、其の子、政盛、常陸の手綱に移され、
 佐竹氏の領となりし後は、輩名義勝居住
 せしも、其の後、絶江しかば、佐竹氏の支族、
 義隣ヨシナカト、に移りぬ。藩を廢せられて後は、其
 の子孫の住家となれり。

六郷町

六郷町ハ、郡ノ東南ニ在リ、農家、殊ニ、多

古蹟

ク、工商之レニ次グ。明治廿九年ノ地震ニテ潰ル、家千餘戸アリ
此の地は、六郷政乗ノリの居りし所なり。政乗、關が原の戦功センコウにより、常陸の府中ノリに封せられし後は、佐竹義宣の父、義重の隠居地カクレとなれり。其の居所は、古館コダンとて、今に、其の跡アトを存せり。

金澤町

金澤町ハ、郡ノ南端ニ位シ、八幡神社アリ。

金澤柵

八幡神社の在る所は、古清原武衡ヒラ家の衡ヒラのよりたる金澤柵ササのあとなり。此

の地は、嶮岨ケンソウにして、ぬけ難かりければ、流石サスガの八幡太郎義家ヨシノも、三年にいて、漸ヤウ之れを落しけり。此の戦に、義家の

義家雁行ヲ見ル之圖



の弟、新羅三郎義光も、京都より、はるばる、出羽に下り、共に、力を合せて、戦ひけり。こは、今より、八百餘年前の昔にて、其の後、義光の子孫は、常陸の佐竹に居り、世々、佐竹氏と稱せしなり。

平鹿郡

面積二十二方里。町村數二十五
戸數一万三千七百〇五戸
人口八万八千九百十七人

境 界

平鹿郡、北ハ、仙北郡ニシテ、東ハ、岩手縣ニ接シ、南ハ、雄勝郡ニシテ、西ハ、由利郡

地 勢

ニ界セリ。

東及び西ノ境ニハ、山アリテ、其ノ他ハ、

平野ナリ。

明治廿七年大水アリ溺死百二十五人流失三百一十一戸

山ノ名アルハ、東ニ、御嶽山、八方峠、明澤岳、西ニ、保呂羽山アリテ、此ノ山ニ、羽宇志別ノ神社アリ。旭川ハ東ヨリ來リテ、御物川ニ注グ。

産 物

産物ノ主ナルモノハ、米、生糸、蠶卵紙、木綿、松茸等ナリ。

横手町

横手町ハ、縣内有名ノ都邑ニシテ、郡ノ

小學

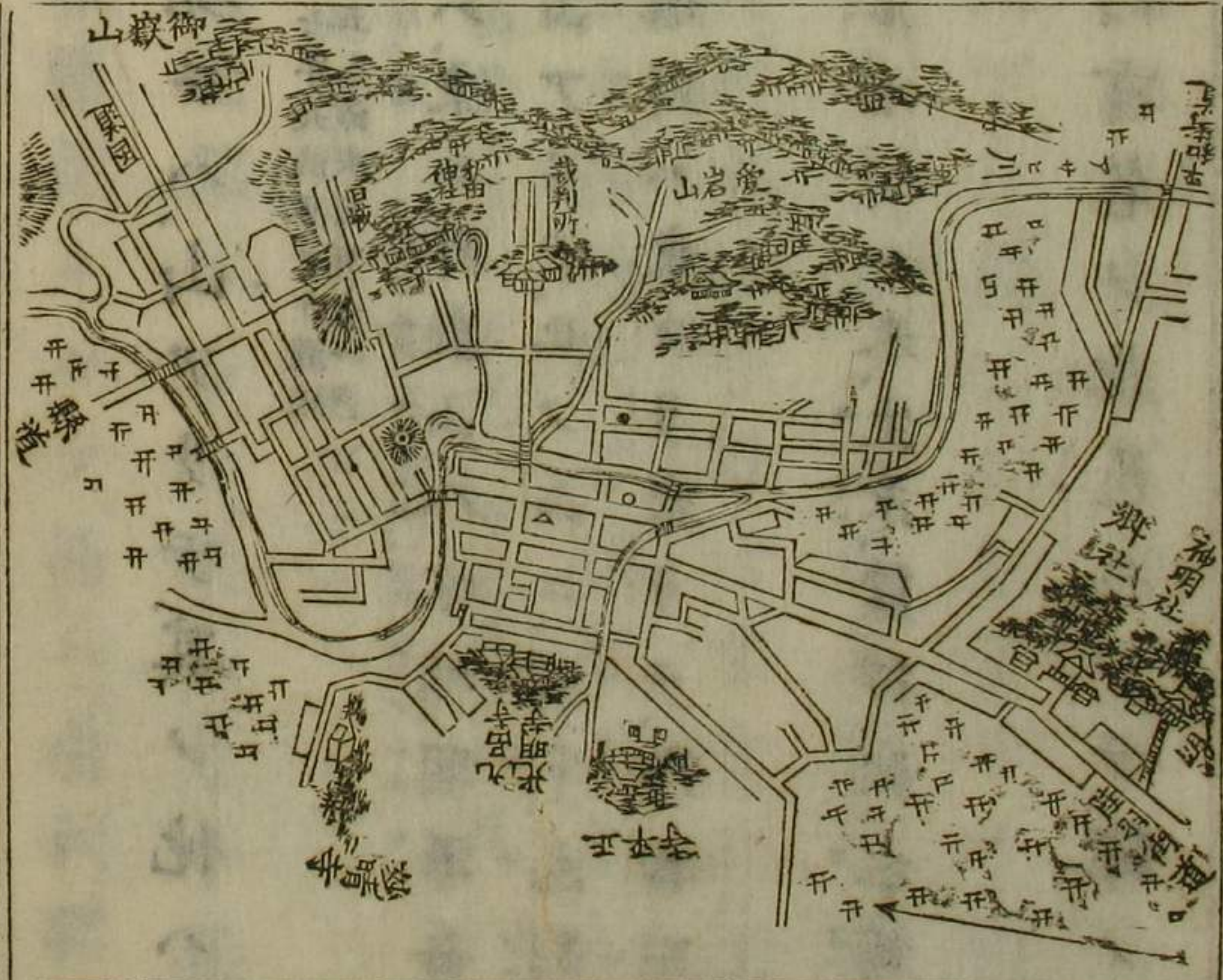
秋田縣地理歴史

十七

魚進堂藏版

北部ニア
 リ、旭川、其
 ノ中央ヲ
 横流ス。近
 年、平和街
 道岩手縣黒澤
尻ニ通ス
 ノ開ケテ
 ヨリ、益繁
 盛ニ赴ケ

横手町之圖



横手城

リ。郡役所、裁判所、警察署、郵便電信局、病
 院等アリ。明治二十七年ノ水災ニ罹リ
百六人流失百七十七戸アリ

横手城は、小野寺景道の築きし所な
 り。其の子、義道は、石田三成にくみせ
 して、本城を引き上げられき。佐竹
 氏の領分となりて後は、伊達盛重、須
 田盛秀等を置きたりしが、寛文年中、
二百二十四年前戸村義國を以て、之れに代へら
 れたり。戊辰の役、敵の爲に、焼かれし

を、町民、其の址に、秋田神社を設く。眺望、頗、佳なり。

角間川町

角間川町ハ、郡ノ北端ニシテ、御物川ト、旭川ト、合流スル所ニアリ。舟運ノ便アルヲ以テ、商業稍、行ハル。富家モ、亦多シ。此ノ地ハ、落合直養ノ生レシ所ナリ。

落合直養

落合直養は、少年の頃、中山盛履に仕たがひて學び、業成りて後、明德館の教授に召されしも、兄の孤子を托せられきとて、之

れを辭しけり。其の郷里にあるや、よく、子弟を教育し、土地の風俗まで、改まりしかば、佐竹義和より、永代祿十石を賞せられたり。

淺舞町

淺舞町ハ、郡ノ西方ニ位シ、農家、頗、多シ。此ノ地ノ八幡神社ハ、結構美麗境内清潔ニシテ、櫻花ノ頃、遊人常ニタエズ。

増田町

増田町ハ、郡ノ東南ニアリテ、養蠶ノ業、甚、盛ナリ。

雄勝郡

面積五十七方里。町村數二十五
戸數一万三千五百七十三戸
人口六万九千九百二十六人

境 界

雄勝郡北ハ、平鹿郡ニシテ、東ハ、若手縣
ナリ、南ハ、宮城、山形ノ二縣ニシテ、西ハ、
由利郡ト界ヲナセリ。

地 勢

東、南、西ニハ、山地多ク、北部ニハ、平野ア
リ。

山 岳

山ノ名アルハ、南ニ、牛毛山、虎毛山、山伏峠、
泥湯山、川原毛山、杉峠、西ニハ、汐山アリ。泥

温 泉

湯岳、川原毛山等ノ近傍ニ、小安湯、泥湯等
アリ。東安山ヨリ分レシ山脈ニハ、院内、松

鑛 山

岡等ノ鑛山アリ。御物川ハ、東安山ヨリ出
デ、皆瀬川ヲ合セテ益大トナリ、此ニ向ヒ
テ流ル。

産 物

産物ノ主ナルモノハ、葉烟草、生糸、蠶卵紙、
杉、銀、漆器、菜種油、干温飽等ナリ。

湯 澤 町

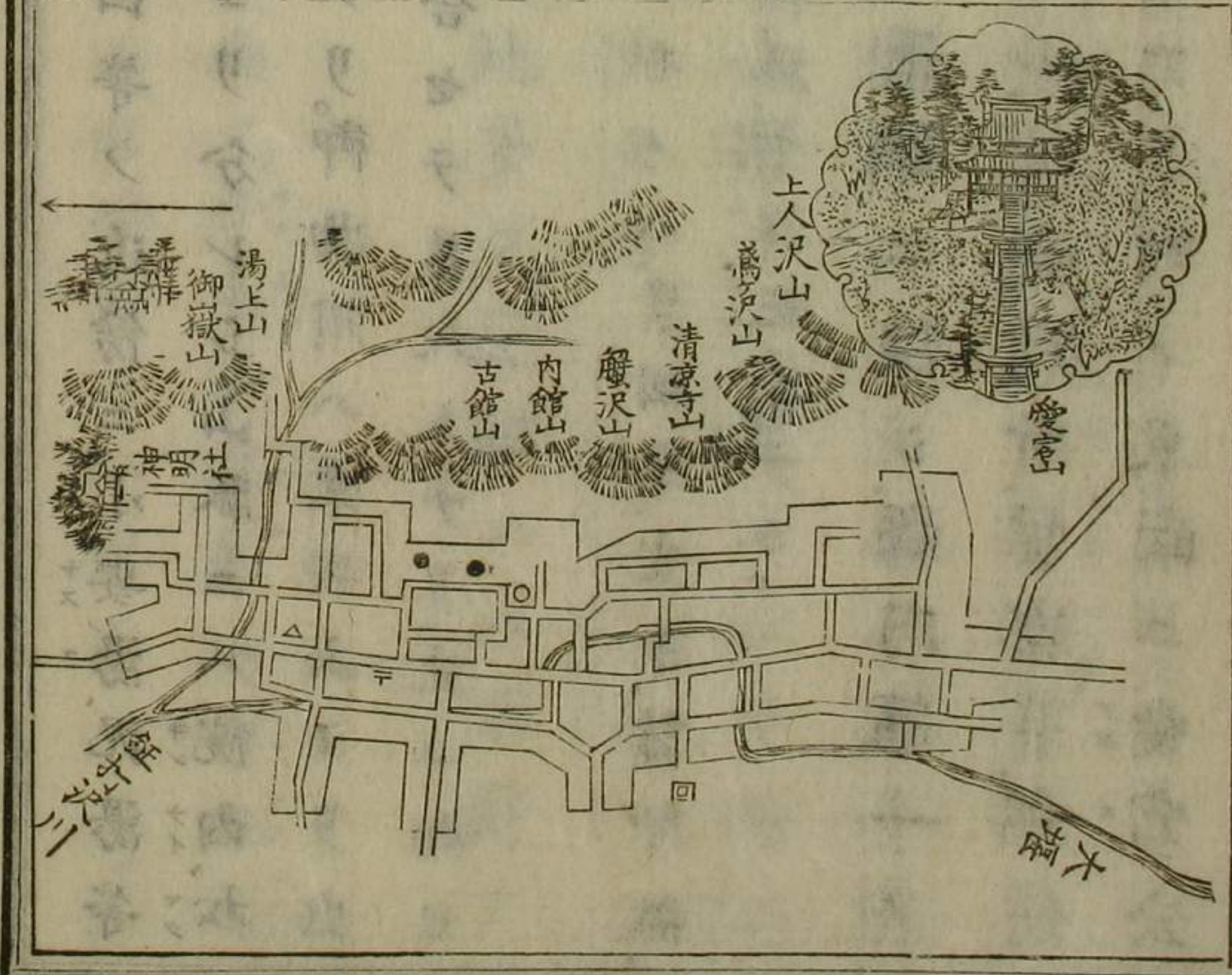
湯澤町ハ、郡ノ北部ニ位シ、縣内第一ノ
養蠶地ナリ。郡役所、裁判所、警察署、郵便
電信局、病院等アリ。町ノ東南ニ愛宕公

湯澤古城

園アリ。櫻花ヲ以テ著ル。

湯澤古城は、初、小野寺輝光の臣家の居城なりしを、最上義光之れを攻め落し、

湯澤町之圖



町 西馬音内

佐藤信淵

其の臣楯岡満茂を置かれたり。佐竹氏、秋田に來りし後は、其の支族、義種の居城となししも、元和六年、之れを廢せられて、更に、一館を其のふもとにかまへ、子孫今、尚居住せり。

西馬音内町ハ、郡ノ西部ニアリテ、農業盛ニ行ハル。佐藤信淵ノ生レシ地ナリ。

佐藤信淵は、世に名高き農業家なり。十六歳なるとき、江戸に上りて、西洋の學を修めたり。が、後、父祖の志を

佐藤信淵之肖像



明治十五年、其の功によりて、正五位を贈られたりき。

つぎ、農業を興さんとして、諸國を廻り、種々の經驗をなし、後、多くの書を著はして、實業をすゝめたり。

由利郡

面積五十六方里。町村數三十一戸數一万四千六百二十三戸人口八万九千四百八十人

境界 由利郡、東ハ、雄勝、平鹿、仙北ノ三郡ニ界

シ、南ハ、山形縣ニ接シ、西ハ、日本海ニ臨

ミテ北ハ、河邊郡ト隣ス。

地勢 東南部ニハ、山多ク、海濱ニハ、平野連レ

リ。

山岳 山ノ名アルハ、テウカイサンイナムラガダケ鳥海山、稻村岳等ニシテ、南

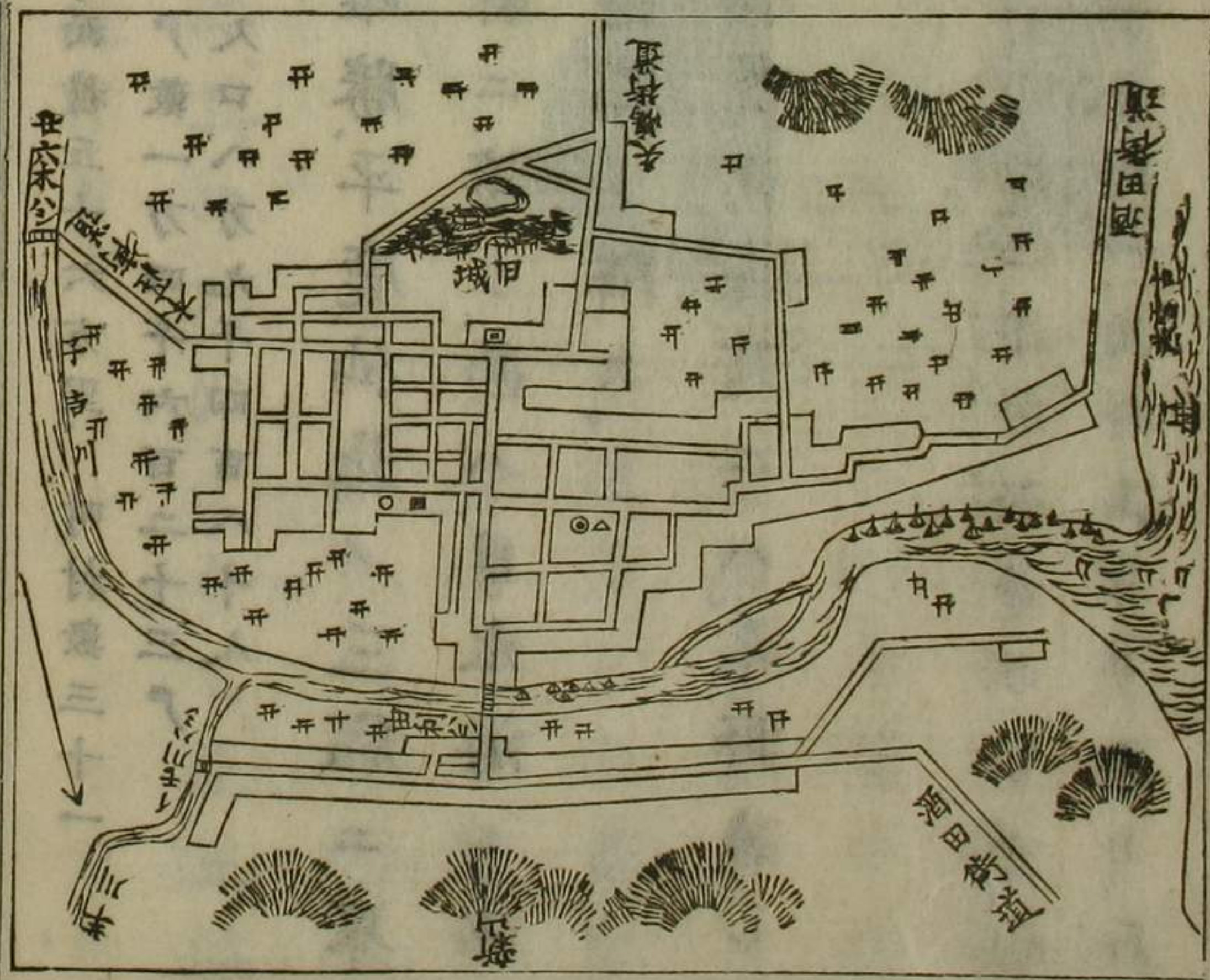
川 方ニソビユ。子ヨシ吉川ハ、鳥海山ヨリ來リ、石

産物

港

澤川ヲ合
 セ、西北ニ
 流レテ、古
 雪港ニ注
 グ。海岸ニ
 港灣多シ。
 古雪平澤、
 金浦象潟
 等はナリ。
 産物ハ、米、

本莊町之圖



麥、大豆、馬鈴薯、葉烟草、菓種、鱈、鱒、鮭、鮫、漆等
 ナリ。

本莊町

本莊町ハ、郡ノ西部、子吉川ノ河口ニア
 リテ、商品ノ出入、夥シ。郡役所、裁判所、警

察署、郵便電信局、病院等アリ。

尾崎城

尾崎城址ハ、町ノ東方ニ位セリ。

尾崎城は、楯岡満茂の築き一所なり。
 最上氏の亡び一とき、楯岡氏も、本城
 を去り一かば、元和九年、二百七十
 六郷政

乗封を此の地に受け、常陸より移りて、其の子孫、永く、本城に居り、一が、戊辰の役、兵火の爲にやけたり。

矢嶋町 矢嶋町ハ、郡ノ東部ニ位シ、子吉川ノ上流ニ臨メリ。

矢嶋城 矢嶋城ハ、大江義父オホエヨシフサの築きしものなり。其の子孫、四代にして亡び、楯岡満茂シヨリヤツの所領となりぬ。其の後、元和七年、二百七十六年前生駒高俊イノコマ タカトシ、高松タカマツより來りて、之

象潟町 象潟町ニ、象潟ノ、古蹟アリ。象潟は、古、
象潟 象潟は、古、
象潟 象潟は、古、



一の海灣カイワンにして、灣中の小嶋コジマ基石イシの如く、有名の勝地シヨウチなりしが、文化元年九十餘年前の地震ジンにて、潟の底は、高まりて、水も干にければ、工藤傳作といふもの残りし嶋をこぼちて、今の田地を開きたりどろ。

龜田町

龜田町ハ郡ノ北部ニ位シ、古ハン繁盛セイノ城下ナリシモ、近時ハ、稍衰オトロヘタリ。此ノ地ニ赤穂津アカホヅノ城址アリ。

赤穂津城

赤穂津城は、赤穂津孫九郎の築きし居城なり。其の遠孫、石田三成にくみせしとて、最上義光に討たれ、其の臣、楯岡満茂の領する所となりしが、満茂本莊に移りし後は、岩城イハキ吉隆ヨシタカ信濃の河カハ中ナカ島ジマより來りて、こゝに居れり。先にいへる佐竹義隆とは、即、此の人なり、此の城、亦、戊辰の役、兵火にかゝりぬ。

山本郡

面積百十一方里。町村數二十六
戸數一万三千二百四十六戸
人口八万四千七百七十三人

境界 山本郡北ハ、青森縣ニシテ、東ハ、北秋田郡ナリ、南ハ、南秋田郡ニ界シテ、西ハ、日本海ニ面セリ。

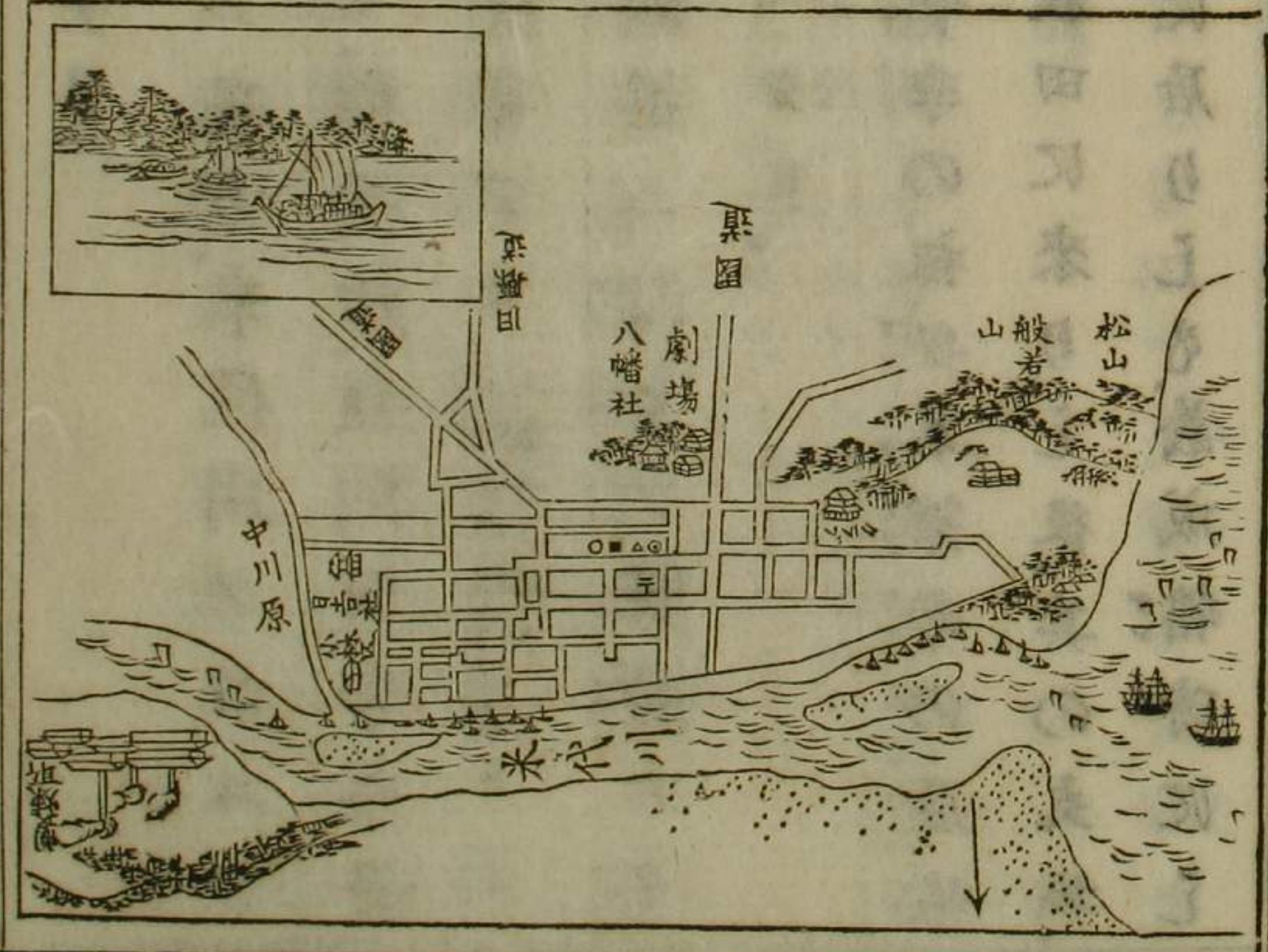
地勢 東北部ニハ、山アリテ、西南部ニハ、平野アリ。

山岳 山ノ名アルハ、北ニ池臺イケダイアリ。東ニ、高岩山タカイハサン、高白津山タカシラツサンアリテ、榛太良等ノ鑛山ハ、其ノ

川 原野 産物

此ニ位セリ。
米代川ハ、東ヨリ來リ、藤琴川ヲ合セテ、海ニ注グ。其ノ南ニ金光寺野アリ。産物ハ、大豆、黍、蕎麥、葉藍、茶、春慶塗、鱒、

能代港町之圖



ハ、目鱈、銀、鉛等ナリ。

野代港町

能代港町ハ、郡ノ西方、米代川ノ口ニア

リ。商業頗、盛ナリ。郡役所、裁判所、警察署、

郵便電信局、病院等アリ。元祿七年地大ニ震ヒ人畜多ク死ス

檜山町

檜山町ハ、モト國道ニ沿ヒテ、繁盛ナリ

シモ、今ハ漸衰ヘタリ。

檜山城

檜山城ハ、安倍實季サチスエノ祖、安東兼季アントウカチスエノ居城なりき。佐竹氏、秋田に來りし後、其ノ支族、佐竹義成ヨシナリ之れに居りしも、義成ヨシナリ暫時ザンシに

大館

大で、大館城に移りしを以て、多賀谷宣家タカヤノブイ其の代りとなりぬ。

北秋田郡

面積二百九十八方里。町村數三十二戸數一万五千二百〇七戸人口九万六千二百十六人

境、界

北秋田郡、南、西ハ河邊、南秋田、山本ノ三郡ニ界シ、北ハ、青森縣ニ接シテ、東ハ、鹿角、仙北ノ二郡ニ隣セリ。

地勢

阿仁川、米代川ノ流域ノミ、平野ニシテ、其ノ他ハ、山地ナリ。

山 鑛 川 温 原 産
山 鑛 山 泉 野 物

山ノ名アルハ、北ニ、清水峠、田代岳、南ニ森
吉岳アリ。鑛山ハ、東ニ、大葛、南ニ阿仁、向山
西ニ矢櫃アリ。米代川ハ、東ヨリ來リ、長木
川、阿仁川ヲ合セテ、西ニ下ル。大瀧ノ温泉、
大野臺等ハ、其ノ南方ニ位セリ。
産物ノ主ナルモノハ、大豆、小豆、黍、藍、馬、杉
材、金、銀、滿庵、曲物等ナリ。

鷹巢村

鷹巢村ハ、郡ノ西、米代川ノ南方ニ位ス。
郡役所アリ。

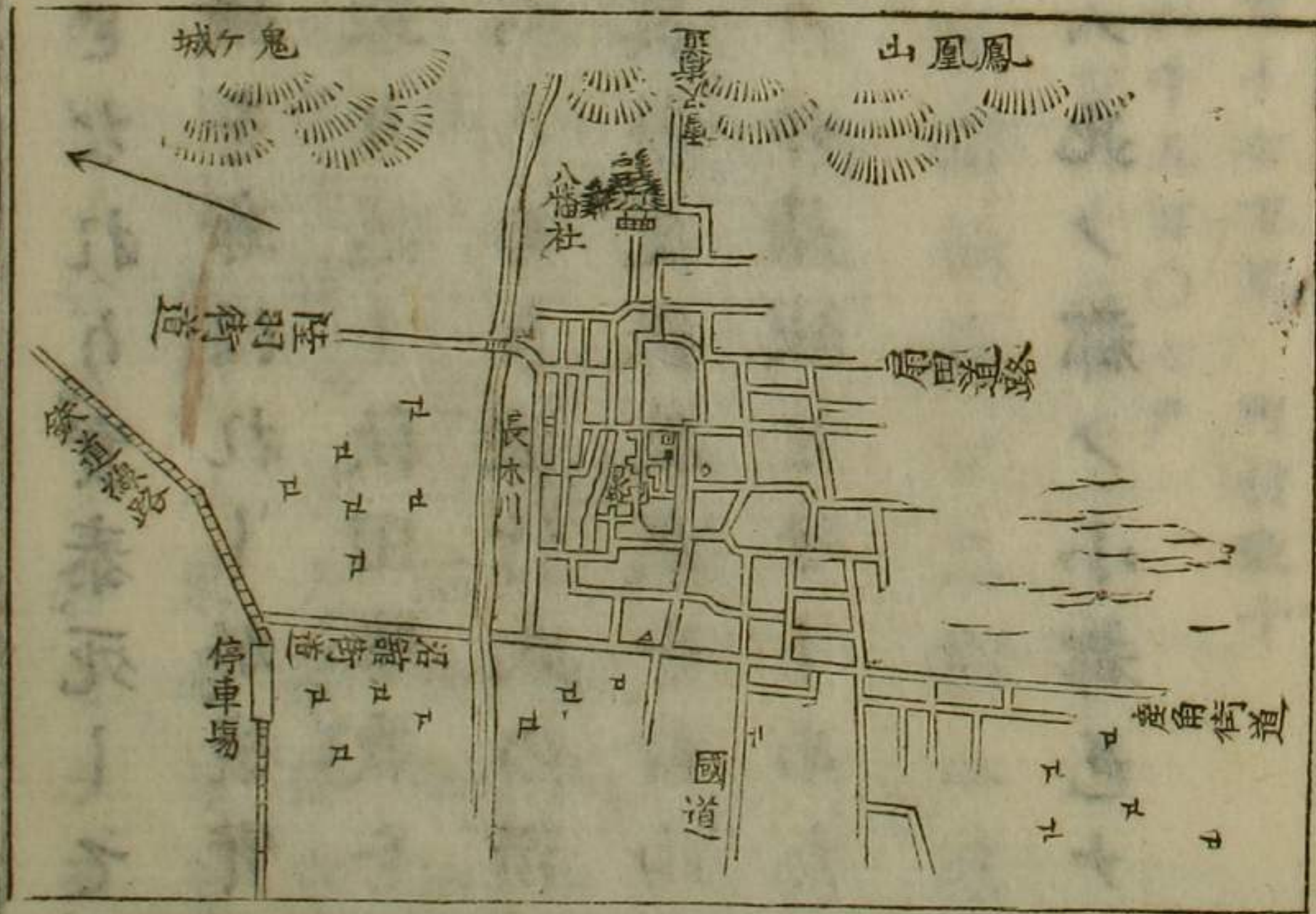
大館町

大館町ハ、郡ノ東北ニ位セル都邑ニシ

大館城

テ、青森縣ニ通
スル要路ニ當
レリ。裁判所、警
察署、郵便電信
局等アリ。
大館城は、淺
利勝頼の亡
び、後、秋田
實季の弟、實

大館町之圖



扇田町
十二所町

泰^{サス}前^ノ櫓^ノ山城^主の居城となれり。實泰死して、南部氏の爲に、城を奪はれしが、後、實季再び本城を取り返し、秋田勝藏^{カツザウ}をして、之れに居らしめき、佐竹氏の領となりて後は、其の支族義成を、檜山より移して、世々の居城とせしめたり。

扇田町、十二所町ハ此ノ郡ノ小都邑ナリ。

鹿角郡

面積百十七方里。町村數十
戸數六千五百〇七戸
人口三万六千二百二十七人

境界

鹿角郡、西南ハ北秋田、仙北ノ二郡ニ界シ、北、東ハ、青森縣ニ接ス。

地勢

山地、甚、多ク、川ノ流域ノミ、平野ナリ。

山 鑛 山
温 泉
川

山ノ名アルハ、四角岳^{シカク}、五ノ宮嶽^{ミヤダケ}、八幡平^{ハチマン}ニシテ、東方ニソビユ。鑛山ハ、東ニ、不老倉^{フクウラ}、細地^{ホソチ}、西ニ、小坂^{コサカ}、小真木^{コマキ}、尾去澤^{オシザハ}アリ。大湯、湯瀬ノ温泉ハ、東部ニアリ。米代川ハ、東南ヨリ來リ、大湯川、毛馬内川ノ合流ヲ合セテ、西

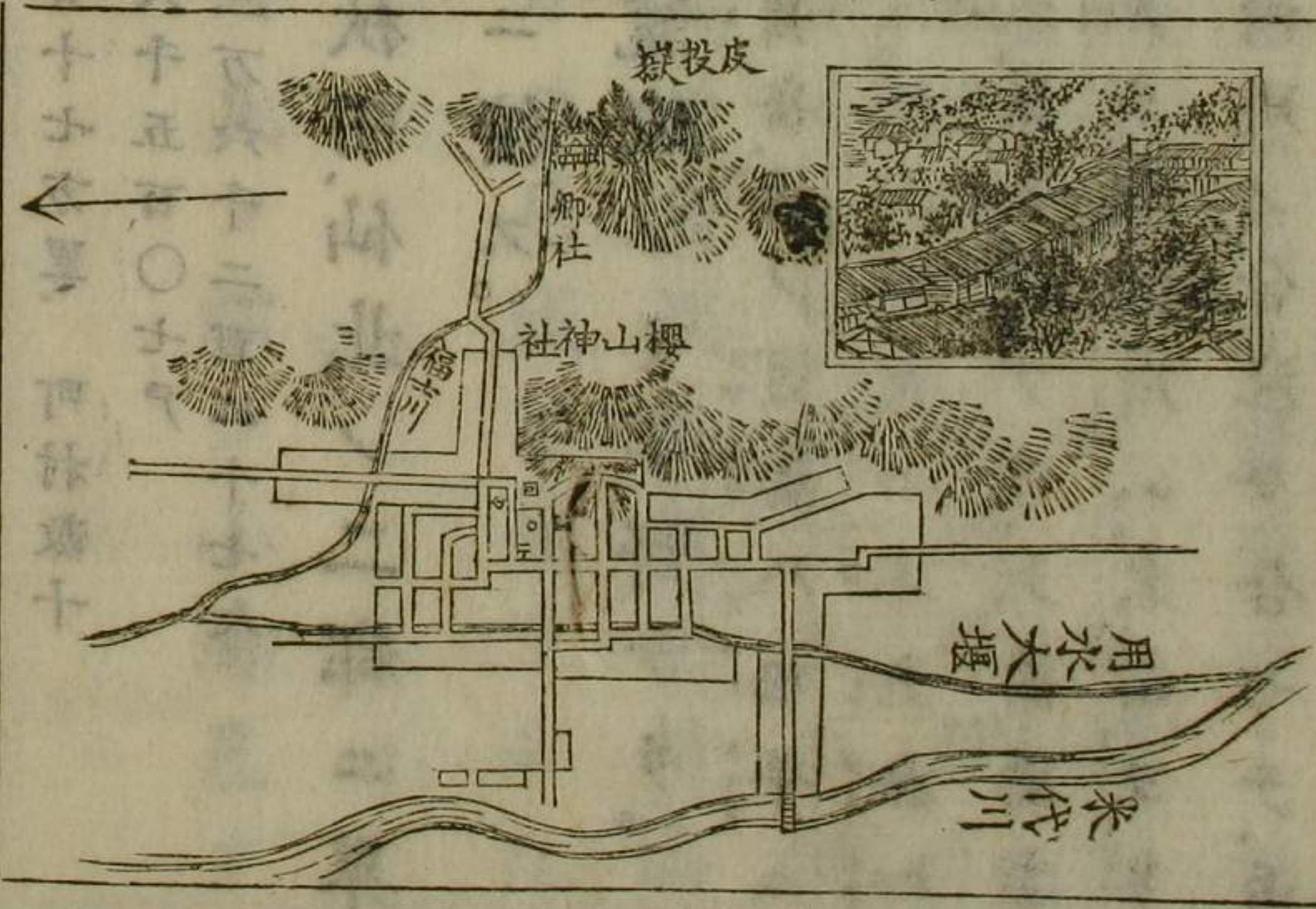
湖 産 物

ニ流ル。北境ニ、
十和田湖アリ。
産物ノ主ナル
モノハ、粟、稗、金、
銅、鐵等ナリ。

花 輪 町

花輪町ハ、郡ノ
中央ニアリ、其
ノ四邊、鑛山ニ
富メルヲ以テ、
市街頗賑ハシ。

花 輪 町 市 街 之 圖



臥牛本館

郡役所、警察署、裁判所等アリ。

此の地の臥牛本館は、安保某の京都より
來りて居りし所なり。某は、花輪次郎と稱
し、稍、勢ありしが、天正九年三百六十七年前南部義直
の命により、九戸郡奥陸に移りき。其の後、當
館は、南部吉兵衛の居城となれり。

毛馬内町

毛馬内町ハ、郡内ノ名邑ニシテ、其繁盛
花輪町ニ次グ。

第二篇

一般ニ關スル地理

位置地勢

本縣ハ、大日本帝國ノ東北ニ位シテ、北、東、南ニ、山ヲ繞ラシ、西方ニ、日本海ヲ控ヘタリ。多クノ川ハ、此ノ山脈ヨリ出デテ、日本海ニ入ル。サレバ、土地ノ有様ハ、北、東、南ヨリ、次第ニ、西ニ傾ケリ。其ノ形、長方形ニシテ、東西ニ短ク、南北ニ長シト知ルベシ。

境界

本縣、北ト、東トハ、青森、岩手ノ二縣ニ界シ、南ハ、宮城、山形ノ二縣ト隣リテ、羽後ノ一市、八郡ト、陸中ノ一郡トヨリ成ル。其ノ面積ハ、九百五十二方里、戸數ハ、十二萬四千二百七十四戸、人口ハ、七十五萬五千〇二十七人アリ。

面積戸數

人口

羽後は、舊羽前ト一國ニシテ、元明天皇の和銅五年より、千百五十六年間、出羽の國ト稱へしを、明治元年に至

り。飽海、由利、雄勝、平鹿、仙北、河邊、秋田、山本の八郡を割きて、今の羽後國とはなす。後、明治四年、飽海郡を、山形縣に合せ、陸中の鹿角郡を我が秋田縣に加へたり。同二十一年、秋田郡を分ちて、南秋田、北秋田の二郡となす。しが、同二十三年、南秋田郡より、又割きて、今の秋田市を置く。縣に知事あり、郡市町村に、各、其の長ありて、政を

施す。

縣界山脈

縣境ニハ、山脈ツゞキ亘リテ、高キ山岳多シ、其ノ中、有名ナルモノ、北ニハ、矢立

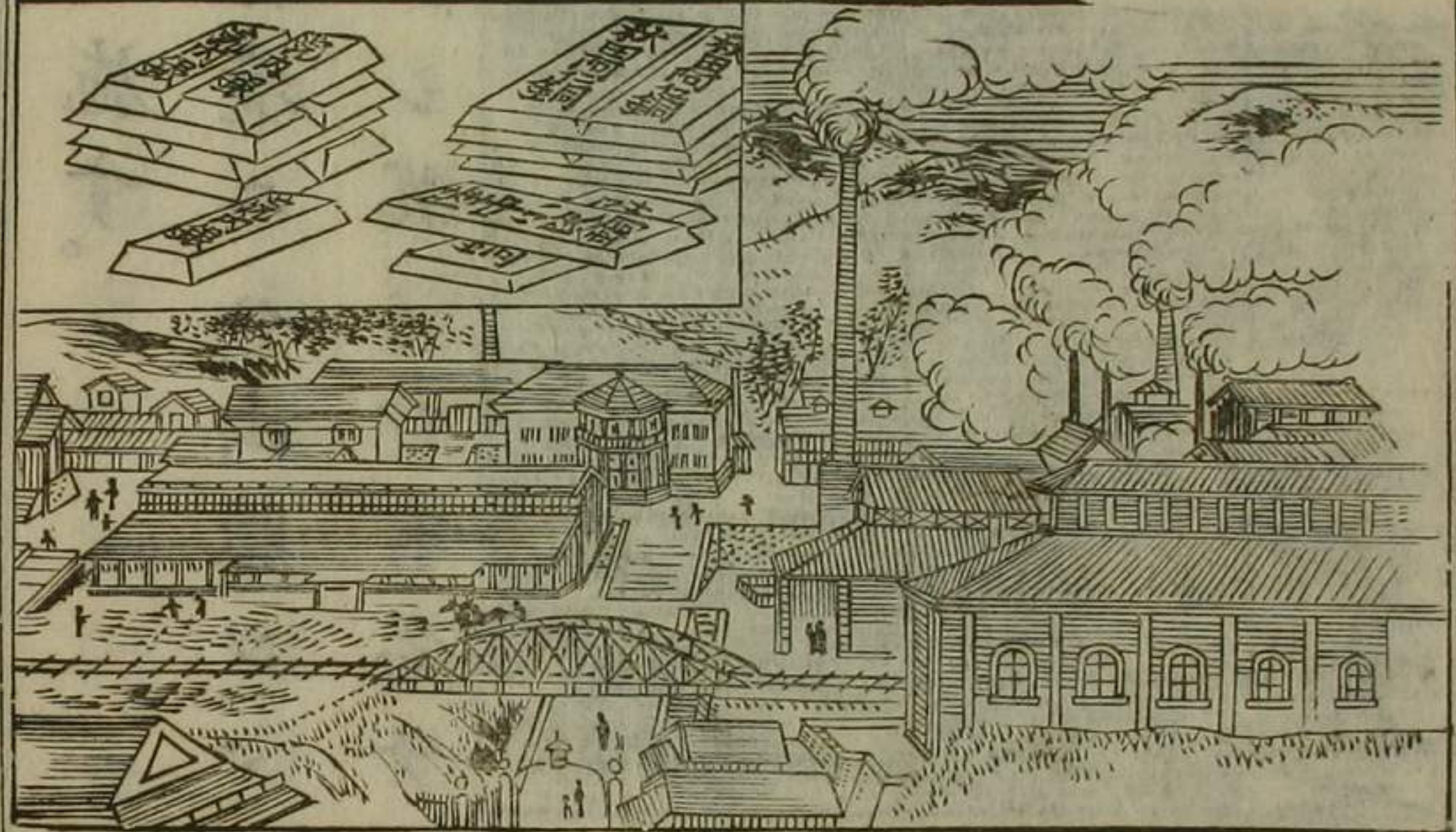


峠、清水峠、東ニハ五宮岳、駒が岳、御嶽山アリ。南ニハ、虎毛山、杉峠、鳥海山アリ。是等ノ山脈ハ、中部ニ岐レ來テ、森吉岳、太

中部山脈

鑛山温泉

製煉場之圖



平山、保呂羽山等ノ
 諸山トナル。
 鑛山、温泉、亦多シ、即
 小坂(銀)尾去澤(銅)院
 内(銀)等ノ鑛山、及ビ
 大湯、鶴湯、小安湯等
 ハ、皆縣境ノ山脈中
 ニアリ、阿仁(銀銅)荒川
 (銅)等ノ鑛山、及ビ大

川

平野原野

龍ノ温泉等ハ、中部山脈中ニアリテ、其
 ノ名、共ニ、アラハル。
 川ハ、大抵、前ノ山脈ヨリ出デ、其ノ數、
 甚多シ、御物川、米代川、子吉川ハ、其ノ中
 ノ大ナルモノナリ。此ノ三川ノ流域ハ、
 廣キ低地ニシテ、仙北及ビ、秋田市附近
 ノ平野モ、若林野、大野臺等ノ原野モ、皆
 其ノ間ニ在リ。

御物川

御物川ハ、東安山ヨリ出デ、西北ニ向ヒ

小學

秋田縣地理歴史

三十三

洋館堂藏版

皆瀨川、旭川、玉川、岩見川ヲ合セ、土崎港ニ至リテ、海ニ入ル。

米代川

米代川ハ、岩手縣ヨリ來リ、西ニ流レテ、毛馬内川、阿仁川、藤琴川ヲ合セ、能代港ニ至リテ、海ニ入ル。

子吉川

子吉川ハ、鳥海山ヨリ出デテ、石澤川ヲ合セ、古雪港ニ至リテ、海ニ入ル。

湖

湖ハ、三、アリ、八郎瀉ハ、海ニ通ゼルモ、田澤湖及ビ、十和田湖ハ、皆山中ニアリテ、

氣候

地震ノ爲ニ生ゼシト云フ。

本縣ハ、高山ト、日本海トニ包マレ、氣候寒冷ナルモ、西南ニ、暖カナル海流ヲウクルヲ以テ、割合ニ寒カラズ。

雨雪

雨ハ、毎年六七月ノ頃、最多ク、雪ハ、十一月頃ヨリ、翌年三月頃マデ降りヌ。

風

風ハ、大抵、春夏ニハ、東南ヨリ吹キテ弱ク、秋冬ニハ、西北ヨリ來リテ強シ。

生業

本縣ハ、山岳多キモ、平野亦、少カラズ。且、

海ニ沿ヘルヲ以テ、農業、養蠶、漁業、殊ニ、盛ニ、鑛業、林業、牧畜、工業、商業等モ、亦、行ハル。

産物

本縣ノ主ナル産物中、米、大豆、生糸、蠶卵、紙、鮭、鱒、背黒、馬鈴薯、葉烟草及ビ織物、干鰻、鮓等ハ、御物川、子吉川ノ流域ニ、多ク産シ、鱒、鮓等ハ、海ニ、鮒、公魚、白魚等ハ、八郎瀉ニ産ス。又杉材、麥、金、銀、銅等ハ、米代川ノ流域ヨリ、多ク出ヅ。

輸出品

前ニ示シシ産物中、東京、大坂等ニ輸出スルモノハ、豆、生糸、蠶卵紙、鑛物等ニシテ、北海道ニ輸出スルモノハ、米、杉材等ナリ。

輸入品

東京藏武、大坂津攝、横濱ヨコハマ、越後等ヨリ輸入スルモノハ、呉服ゴフク、太物フク、石腦油セキノウ、鹽シホ、砂糖サトウ、小間物モノヤク、藥種ヤクシユ等ニシテ、北海道ヨリ、輸入スルモノハ、鹽シホ、鮭サケ、昆布コンブ等ナリ。

交通

本縣、三方ハ山高クシテ、路嶮シク、一方

陸路

ハ、海荒クシテ、安全ノ港ナク、交通不便ナレド、鐵道ヲ敷キ、良港ヲ築ク企アレバ、其ノ便利ヲ得ンコト、近キニアルベシ。

陸路ノ主ナルモノ、數條アリ、秋田市ヨリ、牛島、大曲、横手、湯澤ヲへ、杉峠ヲ越ユルヲ、國道中ノ山形街道トイヒ。大曲ヨリ、角館ヲへ、仙岩峠ヲ越ユルヲ、岩手街道トイヒ。横手ヨリ、黒澤尻ニ通ズル

海路

ヲ平和街道ト云フ。貨物ノ陸運、多クハ、此ノ平和街道ニヨル、秋田市ヨリ、新屋本莊ヲへテ、山形縣ニ入ルヲ、酒田街道トス。又秋田市ヨリ、土崎、能代、大館ヲへ、矢立峠ヲ越ユルヲ、國道中ノ青森街道トイヒ。大館ヨリ、花輪ヲ經テ、岩手縣ニ達スルヲ、花輪街道トイフ。

海路ハ、土崎港ヨリ、南方、古雪ヲへテ、酒田前、新潟、伏木、敦賀、馬關ノ諸

藤原保則
小野春風

陽成天皇イハツセイの時に及び、千廿年前蝦夷等又起り、秋田城を焼き拂ひき。藤原保則ナスノリ、小野春風等、征伐に來りければ、蝦夷ども、戦はずして、逃げ去りぬ。

武衛家衡

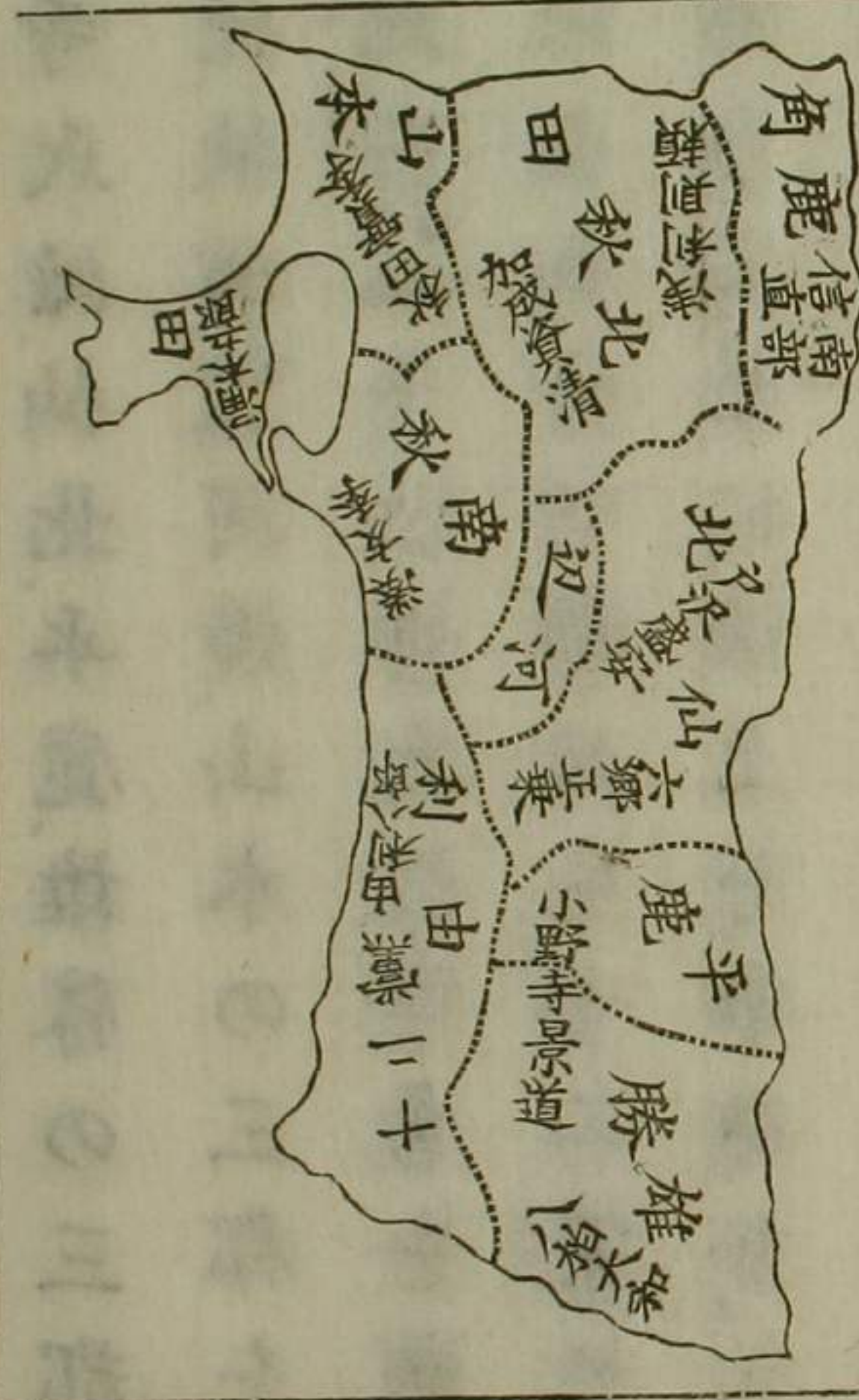
義家

其の後、二百年堀河天皇程過き即、今より、八百餘年前、清原武衛、家衡等の亂あり。源義家來り討ち、此の時なり。是を後三年の役といふ。今を距ること、七百餘年前後鳥羽天皇の頃

小野寺重道

奥羽ツカサドの事を司り、源頼朝ミナモトノヨリトモの部下、葛西清重サイキヨシなりき。其の手下に、小野寺重道といふものあり。來りて、雄勝の稻庭城イナニハ

天正中諸豪族割據圖



に居り、が、足利時アシカガ代の末、二百餘年前、天下大に亂れければ、小野

英雄割據

寺氏は仙北、平鹿、雄勝の三郡を、秋田氏は、秋田秋田今南河邊、山本の三郡を、淺利氏は、比内比内今北を、南部氏は、鹿角を割きて、之れにより、由利郡にも、十二黨タツといふものありて、互に、領土を争ひき。

關が原

足利氏より百餘年をへ、慶長五年に至り、石田三成は、徳川家康と、關が原に戦ひ、ひいに、三成敗れてければ、之れに與みせし小野寺義道は、領土を没收モツシツせられ

移封

秋田實季は、常陸に移されき。佐竹義宣の秋田に移されしも、此の時にして、亦同ト科トカなりきとろ。されど六郷政乗、戸澤盛政ザハモリマサは、家康に従ひしかば、各封土を常陸に受けたり。其の後、家康の子、秀忠の時に至り、岩城吉隆は、龜田に、六郷政乗は、本莊に、生駒高俊は、矢島に、封を移されき。

佐竹家名臣

佐竹家には、義宣、義隆、義和の如き明君

ありて、心を政治に留め、又、匹田忠常、中山盛履、金秀興等の如き名臣ありて、之れを助け、れば、文學も開け、生業も進みたり。

戊辰の役

徳川氏の世、二百餘年の間は、太平なり。一も、戊辰の年に及び、朝廷と、幕府徳川慶喜との争起り、奥羽諸藩は、幕府に與みせしもの多かれど、秋田藩は、本莊、矢島、新莊シムシヤウ、前羽津輕ツツケ、奥陸の四藩と、共に官軍につき、勤

王の軍を起したり。然るに本莊、矢島等は、前後に、落城しければ、敵軍秋田藩に亂入せり。時の藩主、佐竹義堯ヨシカ防戦バウ頗、困クルシみしも、遂に、之れを退けたり。其の後、諸藩封土を返上しければ、朝廷イテ一統トウの御世となりて、民皆、其の徳を仰ぐを得るに至れり。

鹿角郡	鹿角	八幡平	尾去澤鑛山	大湯	米代川	花輪	大湯	十和田湖	栗
	五ノ宮岳	不老鑛山	十和田鑛山	湯ノ瀨	大湯川	毛馬内	神田	錦木	稗
	來滿山	細地鑛山	小坂鑛山		毛馬内川	松山			藥
	四角岳	小坂鑛山	小通木鑛山		谷内川				菫
					十和田湖				物

備考 ○ハ郵便電信局△ハ米穀取引所□ハ郡役所所在地ナリ

山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

明治三十年八月二十八日印刷
 明治卅一年三月五日訂正印刷
 明治卅一年七月二日訂正印刷

明治三十年九月十二日發行
 同 年三月八日再版發行
 同 年七月十五日三版發行

定價金貳拾錢



編纂者 秋田縣仙北郡大曲町 淺沼正毅
 發行者 同 縣平鹿郡横手町鍛冶町 大澤堅治
 發行所 同 縣同郡同町 鮮進堂
 印刷者 同 縣同郡同町 磯吉
 印刷所 同 縣同郡同町 三協合資會社

東京市京橋區弓町二十三番地
 東京市京橋區弓町二十四番地

